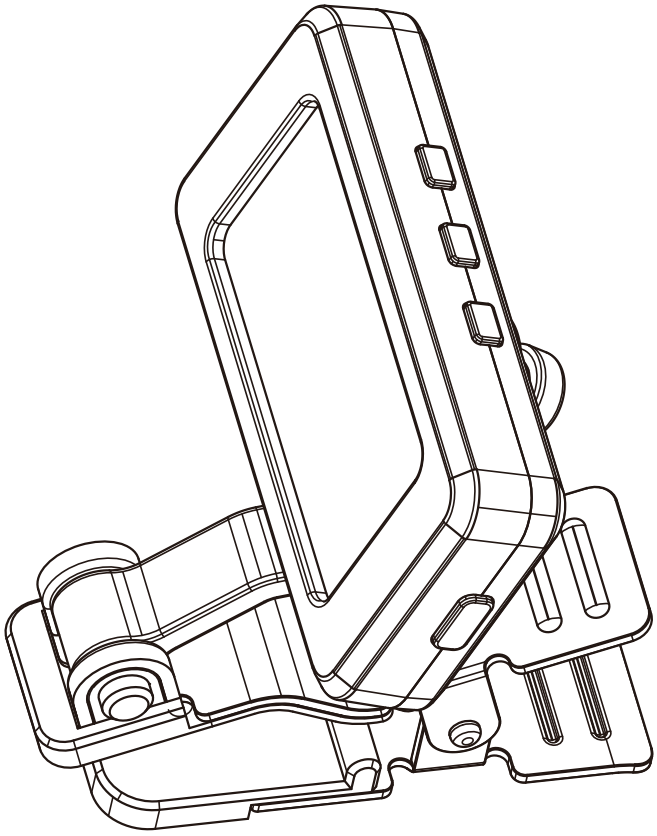
Louis

クリップチューナー LCT-TUNE 取扱説明書



島村楽器

はじめに

この度は LCT-TUNE クリップチューナーをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用前に必ず本取扱説明書をお読みいただいた上、大切に保管してください。

安全上のご注意（火災、感電、人身傷害の危険を防止するために以下の指示を守ってください）

警告　この注意事項を無視した取扱をすると、重大な事故を引き起こす可能性が予測されます。

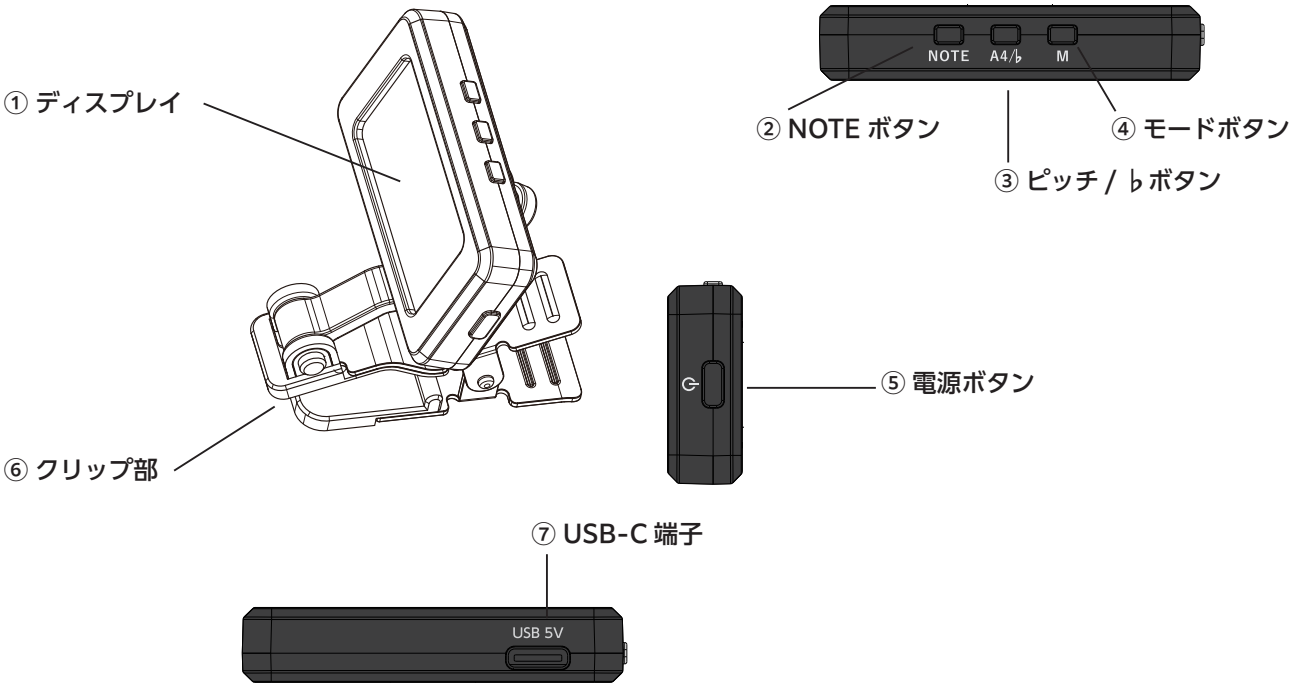
- ■ 次のような場合には直ちに電源を切ってください。
  - · 異物が内部に入ったとき。
  - · 製品に異常や故障が生じたとき。
- ■ 修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りの販売店へ修理を依頼してください。
- ■ 本製品を分解したり改造したりしない。
- ■ 修理 / 部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ■ 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- ■ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、発熱する器具の上など）での使用や保管をしない。
- ■ 振動の多い場所での使用や保管はしない。
- ■ ほこりの多い場所での使用や保管はしない。
- ■ 風呂場、シャワー室での使用や保管はしない。
- ■ 雨天時の野外など湿気の多い場所での使用や保管はしない。
- ■ 本製品の近くに液体の入ったもの（水や薬品など）を置かない。
- ■ 濡れた手で本製品を使用しない。

注意
- ■ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ■ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
  - · ラジオやテレビなどに接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。
- ■ 外装のお手入れは乾いた布を使って軽く拭く。
- ■ 長時間使用しないときは、USB ケーブルを抜いた状態で保管する。
- ■ スイッチやツマミに必要以上の力を加えないでください。故障の原因になります。
- ■ 外装のお手入れにベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド、可燃性のポリッシャーは使用しない。
- ■ 不安定な場所に置かない。
- ■ 楽器本体や塗装を傷める危険性があるため、使用しないときは楽器から取り外してください。

仕様

測定範囲：A0（27.5Hz）～ C8（4186.01Hz）
キャリブレーション範囲：A4=430 ～ 450Hz（1 Hz ステップ）
チューニングモード：クロマチック、ギター、ベース、ウクレレ
測定精度：± 1cent　　電源：内蔵バッテリー（充電式）
バッテリー容量：100mAh
外形寸法：60mm（W）X 52mm（D）X 28mm（H）　　質量：34g

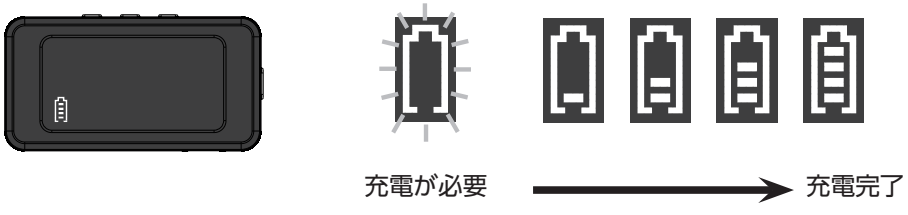
各部の名称



ご使用の準備

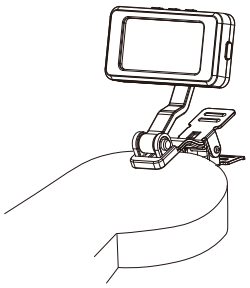
ご使用の前に本体のバッテリーを充電してください。市販の USB ケーブル（別売）を⑦の USB-C 端子に接続し、もう片方を携帯電話用などの充電器（別売）に接続して充電を行います。充電中は①のディスプレイ左下に電池残量マークが表示され、電池残量に応じてマーク内のラインが点滅します。点滅が止まり、すべてのラインが点灯した状態で充電完了です。電池残量マークのラインがすべて消え、電源を投入してもすぐに切れてしまう場合はしばらく充電を行ってからご使用ください。また、バッテリーが完全に放電してしまうと、充電できなくなるなど故障の原因となりますので、長時間使用しないときは十分に充電してから保管してください。

なお、充電器と接続しても充電されない場合は、充電器が LCT-TUNE に対応していない可能性がありますので、別の充電器をお試しください。



充電時間：1.5h（満充電）
連続使用：5h

LCT-TUNE はクリップタイプチューナーですので、ギター、ベース、ウクレレの本体ヘッド部分などに挟んで使用します。クリップ部分を指でつまんで開き、右図のようにヘッドの任意の位置に取り付けてください。



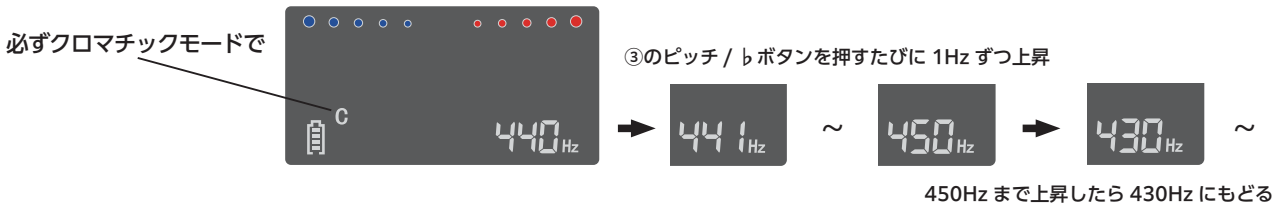
電源の投入

LCT-TUNE を使用するときは、⑤の電源ボタンを一回押して電源を投入します。電源を投入後、ボタン操作などを行わずに 5 分経過すると自動的に電源がオフになります。電源がオフになった場合は、再度⑤の電源ボタンを押してください。また、電源をオフにしたい場合は⑤の電源ボタンを再度押すとオフになります。

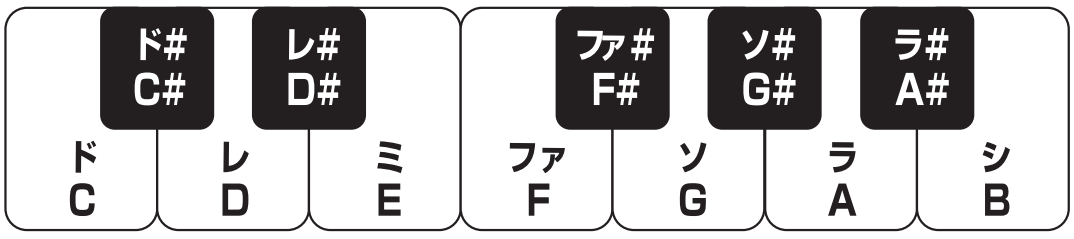
チューニングピッチの変更

LCT-TUNE は基準ピッチ A=440Hz を 430Hz ～ 450Hz の間で変更することができます。
※特に設定の必要が無い方は　⑥チューニングモード　の項にお進みください。
基準ピッチを変更するには**クロマチックモードの状態で**③のピッチ / ♭ ボタンを押します。1 回押す毎に 1Hz ずつ基準ピッチが上がります。現在の基準ピッチはディスプレイの右下に 3 桁の数字で表記されます。お好みの基準ピッチになるまで③のピッチ / ♭ ボタンを何度か押してください。基準ピッチが 450Hz まで上がったあと、一度 430Hz まで下がり、再び 1Hz ずつ上昇します（常に増加する方向にしか変更できません）。なお、③のピッチ / ♭ ボタンを 2 度押しすると 440Hz にリセットされます。

※ギターモード、ベースモード、ウクレレモードの時はチューニングピッチを変更できませんが、クロマチックモードで設定したピッチがギターモード、ベースモード、ウクレレモードでも引き継がれます。クロマチックモード以外でチューニングピッチを変更したい場合は、一度クロマチックモードでピッチを変更してから使用したいモードに変更してください。



※チューナーおよびギター等の弦楽器では一般的に知られるドレミなどの音名表記をアルファベットで表しています。ドレミ表記とアルファベット表記の関係は以下のようになります。

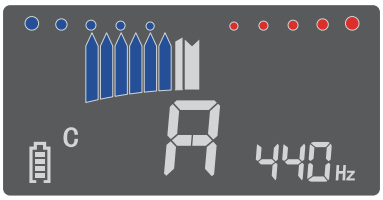


クロマチックモードでのチューニング

④のモードボタンを何度か押し、ディスプレイ左下のバッテリーマーク付近に C の文字を表示させます。G/B/U が表示されているときは④のモードボタンを 1 回または数回押して C を表示させてください。

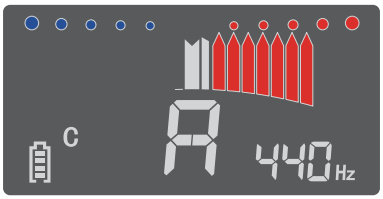
チューニングしたい弦を単音で鳴らします。
鳴らした音に反応して①のディスプレイの中央下部に一番近いピッチの音名が表示され、その上に青、白、赤で表現されるメーター部分が表示されます（必要に応じて音名表示の右側に ♯ が表示されます）。
合わせたいピッチの音名が表示されるまでペグ（糸巻き）を巻き上げ（緩め）ます。
合わせたいピッチの音名が表示されたら（例えばギターの 5 弦なら A）ディスプレイのメーター部を見ながら次の要領でチューニングを行います。

メーターが左に振れている場合（青いブロックが表示されているとき）



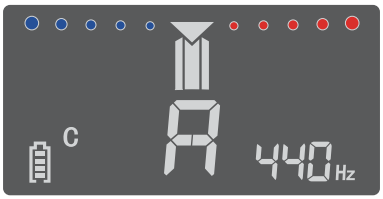
弦の音程が低いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。

メーターが右に振れている場合（赤いブロックが表示されているとき）



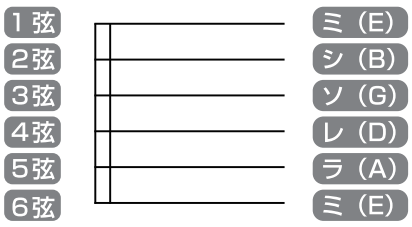
弦の音程が高いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を緩めて、一度メーターが左に振れるようにしてから再度ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。※ペグは常に巻き上げる操作でチューニングを終了するのが上手に合わせるコツです。

メーターの白いパネルのみが点灯し、上部の下向き三角マークが点灯している場合



チューニングが合っています。

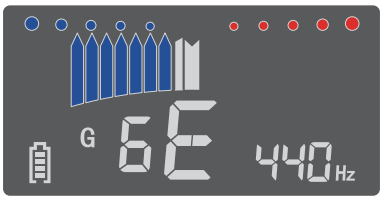
以上を繰り返して各弦のチューニングを行ってください。
ギターの各弦と音名の関係は右図の通りとなります。



ギターモードでのチューニング

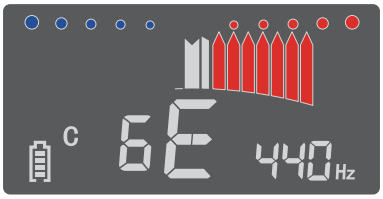
④のモードボタンを何度か押し、ディスプレイ左下のバッテリーマーク付近に G の文字を表示させます。C/B/U が表示されているときは④のモードボタンを 1 回または数回押して G を表示させてください。
ディスプレイ下部に弦番号とピッチが表示され、現在チューニングができる弦とそのピッチを確認できます。
②の NOTE ボタンを押すと、弦番号とピッチが 6E → 5A → 4D → 3G → 2B → 1E（→ 6E に戻る）の順で変化しますので、チューニングしたい弦番号とピッチを設定してから対象の弦を単音で鳴らし、下記の様にチューニングを行います。

メーターが左に振れている場合（青いブロックが表示されているとき）



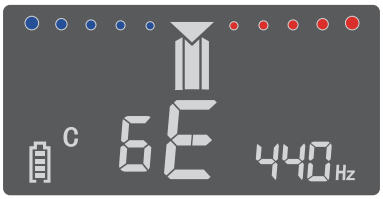
弦の音程が低いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。
※左図は 6 弦をチューニングしている状態です。

メーターが右に振れている場合（赤いブロックが表示されているとき）



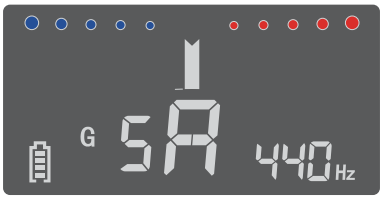
弦の音程が高いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を緩めて、一度メーターが左に振れるようにしてから再度ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。※ペグは常に巻き上げる操作でチューニングを終了するのが上手に合わせるコツです。

メーターの白いパネルのみが点灯し、上部の下向き三角マークが点灯している場合

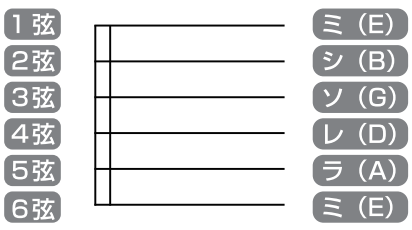


チューニングが合っています。

6 弦のチューニングが終了したら②の NOTE ボタンを押して次の弦のチューニングに移ります。



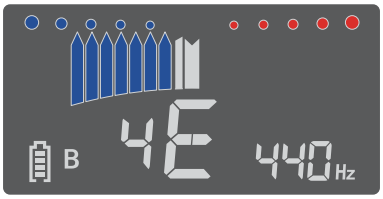
以上を繰り返して各弦のチューニングを行ってください。
ギターの各弦と音名の関係は右図の通りとなります。



ベースモードでのチューニング

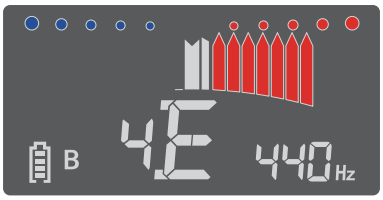
④のモードボタンを何度か押し、ディスプレイ左下のバッテリーマーク付近に B の文字を表示させます。C/G/U が表示されているときは④のモードボタンを 1 回または数回押して B を表示させてください。
ディスプレイ下部に弦番号とピッチが表示され、現在チューニングができる弦とそのピッチを確認できます。
②の NOTE ボタンを押すと、弦番号とピッチが 4E → 3A → 2D → 1G（→ 4E に戻る）の順で変化しますので、チューニングしたい弦番号とピッチを設定してから対象の弦を単音で鳴らし、下記の様にチューニングを行います。

メーターが左に振れている場合（青いブロックが表示されているとき）



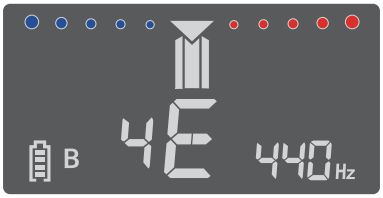
弦の音程が低いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。
※左図は 4 弦をチューニングしている状態です。

メーターが右に振れている場合（赤いブロックが表示されているとき）



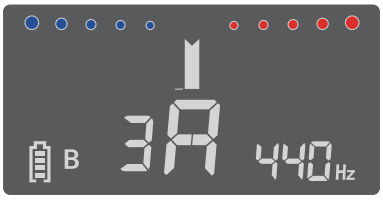
弦の音程が高いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を緩めて、一度メーターが左に振れるようにしてから再度ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。※ペグは常に巻き上げる操作でチューニングを終了するのが上手に合わせるコツです。

メーターの白いパネルのみが点灯し、上部の下向き三角マークが点灯している場合

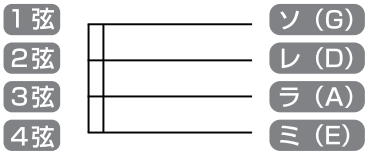


チューニングが合っています。

4 弦のチューニングが終了したら②の NOTE ボタンを押して次の弦のチューニングに移ります。



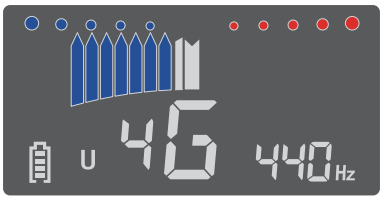
以上を繰り返して各弦のチューニングを行ってください。
ベースの各弦と音名の関係は右図の通りとなります。



ウクレレモードでのチューニング

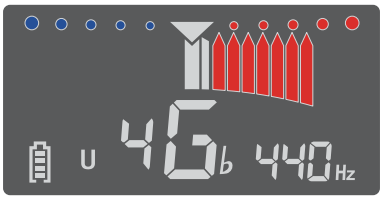
④のモードボタンを何度か押し、ディスプレイ左下のバッテリーマーク付近に U の文字を表示させます。C/G/B が表示されているときは④のモードボタンを 1 回または数回押して U を表示させてください。
ディスプレイ下部に弦番号とピッチが表示され、現在チューニングができる弦とそのピッチを確認できます。
②の NOTE ボタンを押すと、弦番号とピッチが 4G → 3C → 2E → 1A（→ 4G に戻る）の順で変化しますので、チューニングしたい弦番号とピッチを設定してから対象の弦を単音で鳴らし、下記の様にチューニングを行います。

メーターが左に振れている場合（青いブロックが表示されているとき）



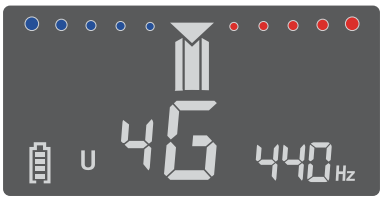
弦の音程が低いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。
※左図は 4 弦をチューニングしている状態です。

メーターが右に振れている場合（赤いブロックが表示されているとき）



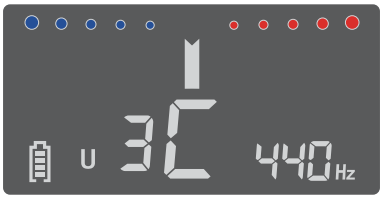
弦の音程が高いです。ゆっくりとペグ（糸巻き）を緩めて、一度メーターが左に振れるようにしてから再度ゆっくりとペグ（糸巻き）を巻き上げてメーターが中央に来るように合わせてください。※ペグは常に巻き上げる操作でチューニングを終了するのが上手に合わせるコツです。

メーターの白いパネルのみが点灯し、上部の下向き三角マークが点灯している場合

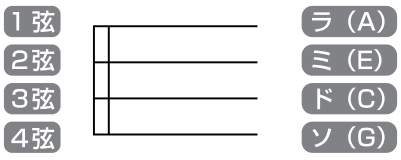


チューニングが合っています。

4 弦のチューニングが終了したら②の NOTE ボタンを押して次の弦のチューニングに移ります。

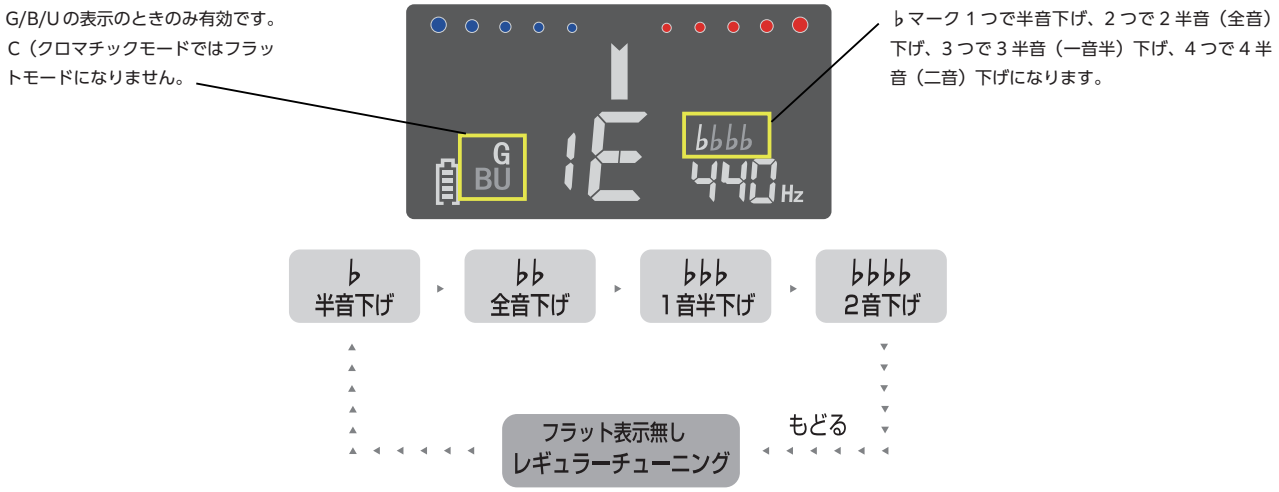


以上を繰り返して各弦のチューニングを行ってください。
ウクレレの各弦と音名の関係は右図の通りとなります。



♭モードについて

LCT-TUNE には半音下げチューニングや全音下げチューニングを行うのに便利な♭（フラット）モードが搭載されています。ギターモード、ベースモード、ウクレレモード時に③のピッチ / ♭ボタンを押すと、ディスプレイ右側に♭マークが表示されて♭モードになります。もう一度押すと♭が 2 つに増え、さらに押していくと♭が一つずつ増えていきます。4 つまで♭が点灯した状態でもう一度押すと♭モードが解除されます。♭モードは表示される♭マークの数に応じて、1 半音～ 4 半音下げまで設定することができます。なお、③のピッチ / ♭ボタンを二度押しすると♭モードがリセットされます。



故障かなと思ったら

ご使用中に下記症状がございましたら、修理に出される前にご確認ください。

◇ 441Hz などのチューニングピッチ変更ができない

チューニングピッチはクロマチックモード時のみ設定が可能です。ギターモード、ベースモード、ウクレレモードの状態では変更できませんので、一度クロマチックモードに変更してから設定してください。

◇電源が入らない

内蔵バッテリーが消耗している可能性があります。USB ケーブルと充電器（別売）を使用して本体を充電してください。

◇♭モードにならない

♭モードはギターモード、ベースモード、ウクレレモード時のみ設定が可能です。クロマチックモードの状態では使用できませんので、クロマチックモード以外に変更してから設定してください。

◇使用中に電源が切れてしまう

内蔵バッテリーの消耗を防ぐため、ボタン操作などをせずに 5 分経つと自動的に電源が切れるようになっています。ご使用を続けるには再度電源ボタンを押して電源を投入してください。